



ギャルド・パトカーが舞い降りて、ほとんどショーと化したサービスエリア。

ランボのパトカー

文と写真 大矢アキオ

2年ほど前、イタリアの高速警察隊がランボルギーニ・ギャルドをパトロールカーとして導入した。

当時日本でも報じられたから、ご記憶の方も多だろう。

イタリアで毎年春に行なわれる国家警察のお祭りに合わせて、ランボルギーニが寄贈したものだ。

最初に配備されたのは、南部のアウストラダ(高速道路)サレルノ〜レッジョ・カラブリア間である。イタリアでも屈指の事故多発路線だ。そこで緊急用として活躍することになった。

しかしこのランボ・パトカーだけを見て、イタリアのパトカー事情を語るのには大きな間違いである。

「でも、アルファ・ロメオばかりなんだろ。いいじゃん」というのも正しくない。

実際は今やBMWやスバル、さらにヒュンダイも大量に採用されているのだ。これは国家警察の監督官庁である内務省に、「4分の1は輸入車にする」という規定があることによる。

そのため今日、もはや老朽化したアルファ155などに代わって、3シリーズやレガシィのパトカーをよく見かける。とくに高性能が要求されるアウストラダにおいては、イタリア製よりも輸入パトカーのほうが目立つくらいだ。

スバルは、国家警察のほかにも、カラビニエリといわれる軍警察、さらには森林警備隊にも、激しい納入バトルを勝ち抜いて納入している。やはり4WDに定評があるようだ。

いっぽうヒュンダイは、覆面パトカーとして大量に採用されている。車種によっては、パトカーとしての納入台数は民

間向けよりも多いのではないと思われるものもある。そのため、友人の観光タクシードライバー、パオロなどは、「ちょっと長いアンテナを付けたヒュンダイを見たら、警察と思え」と教えてくれた。

ランボのパトカーに話を戻そう。

導入された年、ポローニャ・モーターショーを覗くと、早速展示されていた。国家警察のPRコーナーである。

脇に立っていた警察官は、「ギャルドは、これから毎年数台ずつ配備されてゆく」と得意満面で説明してくれた。

それは事実のようで、先日もイモラに近いサービスエリアでギャルド・パトカーに出くわした。早くも人々に取り囲まれている。中を覗いて話しかける女性もいる。

しかしながらギャルドは、いちばん混んでいるアウトグリル(食堂)のドまん前にわざわざ駐車しているじゃないか。警察官たちの目立ちたさが窺える。もはやパフォーマンスである。おいおい、最初の1台は「危険路線の緊急用」に配備されたんじゃないかってっけ？

クルマは寄贈かもしれないけど、燃料代はボクたちが払う税金である。この原稿料もアクセルの煽り数回で消えるだろう。

バセンジャー・シートの警察官は、相変わらず女性の質問に答えている。コラ、走らないんだったらエンジン止めとけヨ。思わず、日本の路線バスに貼ってある「アイドリングストップ」のステッカーを贈呈したくなる。

そんな思いをよそに、ギャルドはV10 DOHC・520馬力の快音を響かせて消えていった